

平成29年5月1日時点

瑞穂市汚水処理施設整備構想 (案)

市町村構想(案)の概要説明

現在の汚水処理計画

平成29年5月1日時点

単独公共下水道

- ・瑞穂処理区(瑞穂地区)

公共関連特定環境保全公共下水道

- ・瑞穂処理区(中地区)

単独特定環境保全公共下水道

- ・西処理区

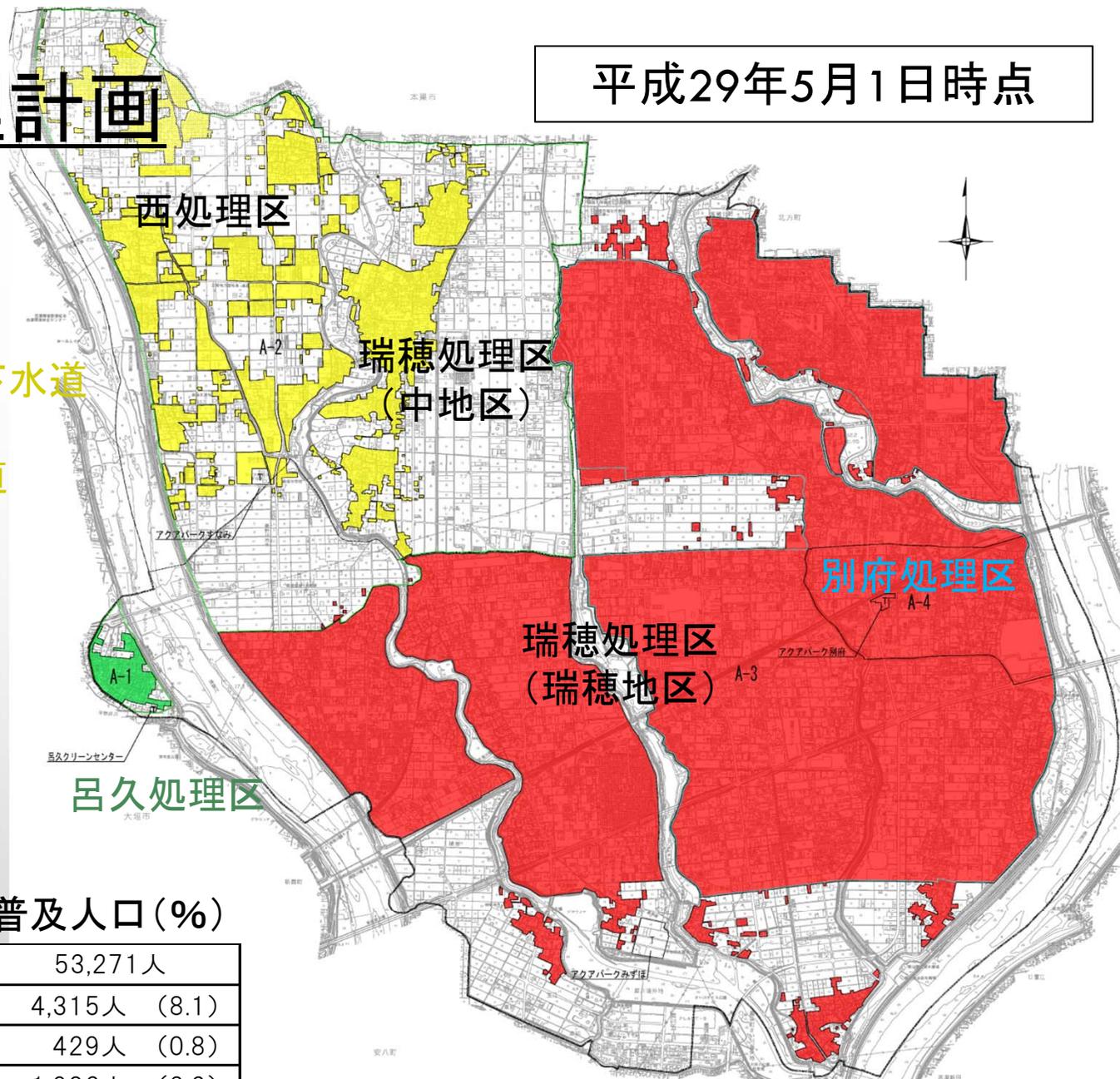
農業集落排水処理施設

- ・呂久処理区

コミュニティ・プラント

- ・別府処理区

(単独公共へ移管の計画)



○現況(平成26年度末)における普及人口(%)

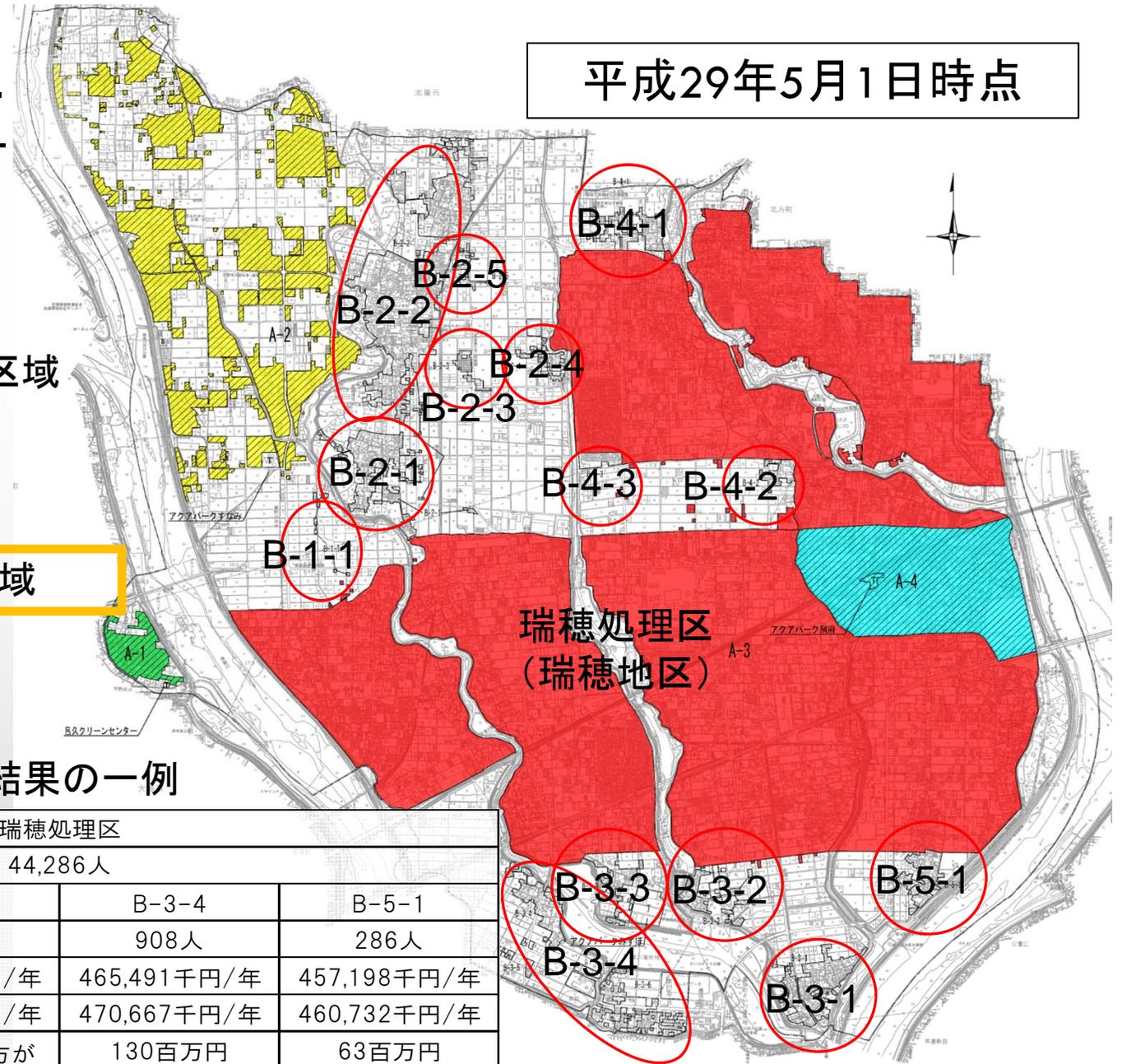
行政人口(平成26年度末)		53,271人
普及人口(%)	公共下水道	4,315人(8.1)
	農業集落排水処理施設	429人(0.8)
	コミュニティ・プラント	1,902人(3.6)
	合併処理浄化槽	22,171人(41.6)
	計	28,817人(54.1)

整備手法の検討

平成29年5月1日時点

- ・着色部分のうち、黒斜線は整備済み区域
- ・黒線で囲んだ区域を検討単位区域として、整備手法を選定した。

○で囲んだのが検討単位区域



○検討単位区域の経済性の検討結果の一例

既整備区域等※	瑞穂処理区			
処理人口※	44,286人			
検討単位区域	B-2-2	B-2-4	B-3-4	B-5-1
処理人口	1,631人	72人	908人	286人
接続した場合	470,968千円/年	457,240千円/年	465,491千円/年	457,198千円/年
接続しない場合	480,980千円/年	456,713千円/年	470,667千円/年	460,732千円/年
経営収支結果	138百万円	接続しない方が 経済性有利	130百万円	63百万円
想定接続率	85%		85%	85%
選定結果	下水道	浄化槽	下水道	下水道

※市街化区域内は既整備区域等とした

検討結果(構想図)

平成29年5月1日時点

既整備区域等への接続検討での経済性により浄化槽整備区域から変更なし

コミ・プラ(別府処理区)を公共下水道(瑞穂処理区)に統合

経営収支がプラスとなった区域を公共下水道(瑞穂処理区)に変更

○平成37年度末までの普及人口(%)の見通し

		平成26年度末	平成37年度末
行政人口		53,271人	54,250人
普及人口(%)	公共下水道	4,315人(8.1)	8,593人(15.8)
	農業集落排水処理施設	429人(0.8)	361人(0.7)
	コミュニティ・プラント	1,902人(3.6)	2,533人(4.7)
	合併処理浄化槽	22,171人(41.6)	28,202人(52.0)
	計	28,817人(55.1)	39,689人(73.2)
概算事業費 (百万円)	公共下水道		6,311
	農業集落排水処理施設		—
	コミュニティ・プラント		—
	合併処理浄化槽		2,055

